

線型空間 その 4：基底と次元

先週

1. 4.4 1 次独立と 1 次従属 (1 次独立性, 教科書 p.174)

今日： 一見難しい言葉が出てくるが，実体はそうでもない．

1. 4.5 基底と次元
2. 4.6 行列の行空間と列空間；階数；基底の構成
3. 4.7 内積空間
4. 4.8 内積空間における「長さ」と「角」

来週

1. 4.9 直交基底；グラムシュミットの方法

4.5 基底と次元

線形空間 \mathcal{V} の元の組 $\{v_1, v_2, \dots, v_r\}$ が次の 2 つの性質を満たすとき，これを \mathcal{V} の基底と呼ぶ．

- $\{v_1, v_2, \dots, v_r\}$ は 1 次独立
- 任意のベクトル $v \in \mathcal{V}$ が，これらの線形結合 $c_1 v_1 + c_2 v_2 + c_3 v_3 + \dots + c_r v_r$ で表すことができる．

定義： 線形空間 \mathcal{V} の次元 (p.185)

線形空間 \mathcal{V} の基底を構成する元の個数 n . $\dim \mathcal{V} = n$ と表す .

4.6 行列の行空間と列空間；階数；基底の構成

行列 A の列空間： A の列ベクトル v_1, v_2, v_3 によって張られる空間 .

$$[v_1 v_2 v_3] = \begin{bmatrix} 1 & 5 & 3 \\ -2 & 6 & 2 \\ 3 & -1 & 1 \end{bmatrix}$$

行列 A の列空間の次元 (= 行空間の次元) を A の階数 (Rank) という .

ランク (階数)

m 本の n 次元ベクトル v_1, v_2, \dots, v_m を列とする $n \times m$ 行列を $A = (v_1, v_2, \dots, v_m)$ と書く .
 v_1, v_2, \dots, v_m のうち，線形独立なもの個数を行列 A のランク (または階数) と呼ぶ .

定理 13 (教科書 p.193)

$n \times n$ 行列 A に関する次の条件はすべて同値

1. A のランクが n である .
2. 行列式 $|A|$ が 0 でない . $|A| \neq 0$.
3. 逆行列 A^{-1} が存在する .

4.7 内積空間

内積は「内積の公理」を満たせば何でも勝手に定義してよい .
ベクトル x, y の内積を考えよう .

内積の公理 :

1. 線形性 $\langle c_1 u_1 + c_2 u_2, v \rangle = c_1 \langle u_1, v \rangle + c_2 \langle u_2, v \rangle$
2. 対称性 $\langle u, v \rangle = \langle v, u \rangle$
3. 正値性 $\langle u, u \rangle \geq 0$, 0 は $u = 0$ のときに限る

公理は内積という演算の満たす性質を規程するだけ .

具体的には \rightarrow 「物理的性質を上手に表現するように」決めればよい .

例 43

$\langle u, v \rangle = 3u_1v_1 + 2u_2v_2$ で内積を定義

ユークリッド空間の $\langle u, v \rangle = u_1v_1 + u_2v_2$ とは異なる .

上記の公理をすべて満たしている .

$\langle u, v \rangle = \begin{bmatrix} u_1 & u_2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 3 & 0 \\ 0 & 2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} v_1 \\ v_2 \end{bmatrix}$ と書ける (双一次形式) .

ユークリッド空間の内積は $\langle u, v \rangle = u^T v = \begin{bmatrix} u_1 & u_2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} v_1 \\ v_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} u_1 & u_2 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} v_1 \\ v_2 \end{bmatrix}$

4.8 内積空間における「長さ」と「角」

定義 : ノルム $\|x\|$ (ベクトルの長さを一般化したもの)

$$\|x\| = \sqrt{\langle x, x \rangle}$$

二つのベクトルのあいだの角度 θ :

$$\cos \theta = \frac{\langle x, y \rangle}{\|x\| \cdot \|y\|}$$

$\langle x, y \rangle = 0 \rightarrow x$ と y はたがいに直交するという ($\cos \theta = 0$, つまり $\theta = \pi/2$)